



TITLE:

スタハノフ運動

AUTHOR(S):

大塚, 一朗

CITATION:

大塚, 一朗. スタハノフ運動. 経済論叢 1937, 44(3): 467-474

ISSUE DATE:

1937-03-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130906>

RIGHT:

京都市帝國大學經濟學會 經濟論叢

第 三 號 第 四 十 四 卷

昭和二十三年一月一日發行

論 叢

賣上税の課税方法

法學博士 神戸正雄

國民生命史觀

經濟學博士 石川興二

貸借對照表の問題

經濟學博士 蜷川虎三

時 論

輸入統制の目的

經濟學博士 谷口吉彦

研 究

國際的再保險と爲替相場の變動

經濟學士 佐波宣平

シユラーの保護貿易論

經濟學士 岡倉伯士

ミッダルの貨幣論について

經濟學士 服部新一

說 苑

土地利用組合に關する一資料

經濟學博士 八木芳之助

スタハノフ運動

經濟學士 大塚一朗

農民の税外負擔

經濟學士 柏井象雄

附 錄

新着外國經濟雜誌主要論題

スタハノフ運動

大塚 一朗

緒言

周知の如く、蘇聯邦は一九二八年八月より一九三二年末迄にて其の第一期を終はり次いで一九三三年一月より本年末迄にかけて其の第二期を續行中の所謂五ヶ年計劃を以て、國民經濟力の内容充實と新社會建設の完成との爲に、舉國一體の懸命な努力を試みてゐる。右の所謂五ヶ年計劃は全國民經濟過程を對象にしてゐるもので、従つてこれが具體的現象形態は各方面に其の特徴を表はしてゐるから決して或る單一の視角から其の全貌を窺ふことは出来ない。或は國防充實計劃、或は財政計劃、或は産業教育計劃、或は勞働計劃、或は國民所得分配計劃、或は産業社會化擴充計劃等々として、種々の方面から五ヶ年計劃の歴史的意義を認識することが出来るのである。しかし、何といつても五ヶ年計劃の中心的眼目は、現段階に立つ蘇聯邦の國民經濟的生産力を可及的短期の一定期間内に或る豫定點へ迄引き上げてこれを擴充強化することにより、急速に後進産業國たるの面目を改めて自國の存立要件に於ける資本主義諸國への依存性を解消し、以て新社會建設完成の爲に獨自の物質的地盤を確保するといふことを企圖

スタハノフ運動

するの點に存してゐる。五ヶ年計劃とは將來への傍觀の見透しといふが如き單なる觀念的意義のものではなくて其の内容の實現を要求されたる具體的經濟政策である。

そこで、現行制度の如き蘇聯邦經濟機構の中で以上の意味の五ヶ年計劃を實際に成功せしめるに對して至重の根本的條件が何かといへば、それは更めて問はれる迄もなく勞働能率 (Produktivität der Arbeit) の増進でなければならぬ。人はそれにつき、たゞ、五ヶ年計劃が前述せる如くに限定された比較的短い期間内に蘇聯邦の産業狀態を一新して國民經濟的生産力の飛躍的發展を實現することに其の中心的使命をおいてゐるといふ點を想起すればよい。かくて五ヶ年計劃執行上の最高指導機關たる中央計劃委員會に當初から凡有る手段、方法を盡して勞働能率増進の爲に狂奔して來たのである。それは正しく狂奔して來たといへる。かくて、屢々外國人旅行者の皮相の觀察眼にはそこに單なる双隸勞働又は勞働地獄が存してゐると映つた如き實狀さへもが見られたのである。而して、その際に用ひられた諸手段の中で就中注目すべきものは生産過程上の『社會主義的競争』と稱せられる組織的手段である。これは本質的には勞働者をして各自の努力による勞働能率増進上の貢獻をば各自の負ふべき社會的名譽と感ぜしめ、此の心理的契機によつて勞働者の能率増進欲を強く刺戟せんとするものである。此の『社會主義的競争』に種々なる形態のものが現はれたが其の一發展形態として一九三五年九月以降に突如としてスタハノフ運動と稱するものが出現した。

1) 公式主義的、靜態觀的勞働科學者への排撃と、テーラー式科學的管理法の研究及び應用の發達とは此の場合の顯著なる一徵表をなす。
2) Remmele, H., Die Sowjetunion, I Band. 1932. S. 257 ff.

スタハノフ運動は其の出現と同時に忽ち蘇聯邦の全労働界を風靡してこれを支配するに至り、現在なほ第二期五ヶ年計劃の成否如何がこれにかかるといはれる程に異常に重大な意味を持つ現象になつて來てゐる。

蘇聯邦中央計劃委員會労働部長マルクス氏は『國際労働評論』誌に右のスタハノフ運動に就いて詳細な一論を寄稿してゐる。以下に、其の記述から要點をとつてスタハノフ運動の概貌を畫き、次いでそれに關する若干の批判的私見を附加しておかうと思ふ。

一、スタハノフ運動の概念

中央計劃委員會が第二期五ヶ年計劃の豫定内容を實現する爲の基礎的條件たる労働能率の増進を目指してこれが指導、獎勵に努力してゐる最中、一九三五年九月始めに蘇聯邦諸新聞は當時ドネツ炭鑛の一抗夫スタハノフ (A. Stakhanov) が彼の獨自の工夫を以て採炭労働の仕方を改善し、其の結果從來の正常能率標準の十六倍に達する程度に迄自己の一日採炭能量を増進し得たことを報じた。此の報知が傳はると蘇聯邦の全労働階級はこれによつて異常なる衝撃を受けた。そして、

各種の産業部門を通じて到るところに、夫々自己の労働方法を自發的に工夫改善して、以て既存の労働能率記録を打破せんとする競争現象が現はれ、それが波瀾の勢にて全産業界に益々廣く深く瀰漫して行つた。即ち、先づ直接關係の採炭労働界にては直ちにスタハノフ記録の超克を目指す競争者が出で、其の企圖を實現し、軀て機械製造、紡織、製靴等々の諸部門にも同様に既成の能率記録を超えて驚異的な新記録を樹立する者が相繼ぎ輩出した。かくて、ドネツ炭鑛の一抗夫スタハノフによつて激發されることにより蘇聯邦労働者間の能率増進競争熱は未曾有の程度に迄昂揚されるに至つたのだが、其の影響の及ぶところ蘇聯邦産業界の労働能率は各部門に互つて一般に著しき改善の跡を現はし、これによつて第二期五ヶ年計劃進行の前途には其の成功を確信せしめる希望の一大光明が點ぜられることになつた。一九三五年の秋から蘇聯邦労働階級を風靡して廣汎なる範圍に起つた、かゝる異常に強烈な能率競争現象のことをスタハノフ運動といふのであ

3) Markus, B. L.,
The Stakhanov Movement and the Increased Produktivity of Labour in the U. S. S. R.
(in "International Labour Review," Vol. XXXIV. No. 1. pp. 5-33)

る。スタハノフ運動は畢竟其の名稱は特殊のものでも其の本質から見るときには、それは第一期五ヶ年計劃の當初から種々の形態にて組織的に醸成されて來た『社會主義的競争』が新たに高度の發展を遂げたる結果の延長形態といはるべきものに外ならぬ。

二、スタハノフ運動の効果

スタハノフ運動が蘇聯邦の勞働能率及び生産組織の上に齎した効果は何であるか。先づ、勞働能率に關する方面から見て行かう。スタハノフ運動の開始以來蘇聯邦の諸新聞は日に殆んど枚舉しがたき程の多數なる新能率記録事例について報道を掲げてゐる。そしてそれらの事例は鑛山業、重工業、輕工業、農牧業と凡有種類の産業部門に互つてゐる。今、かりに或る日のイスベスチャ紙をとつてそこに報道された新能率記録事例の一、二を摘記してみやう。ツアポロゲスタル鐵合金工場では一技術者と一勞働者とが協力して一電氣爐にて一日に鐵珪素四四—四八噸出產することに成功

した。然るに、其の種の電氣爐を以てしては從來では一日三八噸の出產高が最高能力であつたのである。又モトロフ動力車工場では、バルブ一箇の製造に對する平均所要時間二・七分の新記録が得られたが、それは米國フォード工場でも平均三・四分を要してゐたのに對照される。更に、ゴルキー工場ではピストン一箇製造上の平均所要時間が二・八分の新記録を現はしたが、これもフォード工場の平均所要時間たる五分間と比較されなければならぬ。以上は重工業關係中から擧げられた一端の事例であるが、同一紙面に人は又直ちに、農牧業方面に關係しても同様に豊富なる新勞働能率記録の出現した事を推知せしめられる數箇の事例に著眼する。かくて、スタハノフ運動が勞働能率の増進について齎した新記録の事例は字義通りに無數といふべく、其の報知に接しては人はただ呆然たらしめられるばかりである。

政府はかゝる能率競争現象の持つ意義の重大なることを早くから充分に認識して、凡有る方法、手段を以

て此の新運動を支持し助成し、これを權威づけることに努力した。抑も、スタハノフの先例に倣ひ自己の勞働能率上に新記録を樹てたる勞働者はスタハノヴィストと稱せられてゐるのである。政府は一九三五年から一九三六年にかけこれらのスタハノヴィストを工業、運輸、建築、農牧業と各部門に亘り全国各地から數回もモスコフに召集會合せしめて政府代表者と會談の機會をつくり、そこで語られた彼等の經驗談は一介の勞働者の發言であるけれども永く蘇聯邦の技術史を飾るべきものとなされたのである。其の他に、スタハノヴィストが政府の手により厚く其の功績を表彰されてゐることはいふまでもない。又多くの場合に、スタハノヴィストは選拔されて、夫々の從業經營内で彼等の改良方法を普通勞働者に傳達し、これを指導すべき教導職に就かしめられる。

轉じて、スタハノフ運動が蘇聯邦の生産組織に對して及ぼせる影響を瞥見することにしやう。前述したやうに、スタハノフ運動に於いて多數の新能率記録事例

が現はれたのだが、實際箇々の勞働者が夫々ただ單獨に其の勞働方法を工夫し、改善して勞働能率増進の新例を開くといふだけのことならば、それは必しも至難のことではない。しかし、一經營の全體、乃至は一産業部門の全體、更に進んで全産業部門の全體の上に勞働能率の増進を實現するのは決して容易でなく、そこには又別の工夫が伴はなければならぬ。即ち、教導の普及と組織、機構の全面的調整とが必要になつて來るのである。先づ、可及的急速にスタハノヴィストの經驗又は工夫を經營内從業勞働者一般に普及せしめる爲に、多くの經營内にスタハノヴィスト學校が設立された。更に、各經營間を通ずるスタノヴィスト協會が設けられて彼等同志に相互切磋の機會がつけられ、又スタハノヴィストの各經營間從業交替制が行はれて彼等の得たる經驗の一般的普及が促進された。

次に、教導の普及と相並びて、經營内各部過程相互間及び各産業部門間の連絡關係を調整し、相互の生産進行狀態間に調和を維持することが更に一層重要でな

ければならぬ。たとへ一經營内若くは各産業部門間の或る一部に異常なる勞働能率の増進が起つても、生産過程の全體に密接な有機的聯關が展開されてゐる現代産業機構に於いては、其の能率増進の起つた部分と、其の前後に關聯する作業過程乃至は生産過程の上の生産進行状態とが均衡關係を失つてゐては、到底全體に互る勞働能率の増進を實現することは出来ないのである。そこで、スタハノフ運動の進展と共に、各箇經營内各部分作業過程間及び國民經濟上各生産部門間の聯終關係の調整が愈々急切に要求されることになり、著々として其の改善の實が擧げられた。ここに蘇聯邦の生産組織に及ぼしたスタハノフ運動の顯著なる効果を見る。そして全勞働者各自に於いても亦、彼等が生産の過程に於いて彼等の同僚と如何に密接に結びついてゐるかを發見し、理解して、各自の勞働上の責任がただ彼等個人の仕事の上のみに關はるものでないことを明瞭に自覺せしめられることになつた。概括的に言つて蘇聯邦の生産組織は、スタハノフ運動の影響により、

部分的及び全體的に、各過程間の調和關係を著しく改められ、少からず其の合理化を進展せしめられた。

三、スタハノフ運動の基礎を成す諸契機

スタハノフ運動の成立、普及、及び其の發達を齎し、これを支持せる契機は何であるか。そこに向けられる吾々の疑問に對してマルクス氏は又詳細なる説明を與へてゐるが、それを要約すれば結局そこに心理的、技術的、教育的、及び社會厚生の契機ともいふべき四要素を捉へることが出来る。心理的契機といふは、變更された社會組織の中で勞働者階級の勞働心理が根本的に變化して來たことをいふのである。今や勞働者は從前の如くに私人間的支配關係の下で勞働に従事するのでなく、從つて生産結果の分配について生ずる私人間的公正への反抗心から其の勞働意欲を萎靡されることがない。又資本主義社會に見るが如くに能率増進によつて生産過剩を招き、かへつて自己の生活關係に不利益の影響を蒙ることがあるのを憂へるの要なきに至

つた事情を勞働者階級が理解した。多々益々生産して愈々彼と社會との厚生が調和的に増進するのを知るに至つたのである。技術的契機とは物的生産設備が最近數年間に根本的に改められて、高度の科學化、機械化が遂げられたことをいふ。たとへば機械工業では其の設備機械の五―七割が最近時即ち五ヶ年計劃に入つてからの製作にかゝるものになつた。作業過程の大部分が手工によつてゐたのでは如何に工夫し、如何に努力を進めても其の勞働能率を従前の二倍以上に引上げる

のは困難のことである。然るにスタハノヴィスト達は機械的設備の利用の上に其の利用過程を改善して始めて悠々と五、六倍にも達する能率増進の餘地を見出すことが出来たのである。教育的契機といふは、勞働者の教育、訓練が大いに重視され、強化、擴張されるやうになつたことを指す。最近數年間に蘇聯邦の產業界が新たに追加的に吸収した勞働者の總數は千五百萬にも達すると推定されるが、これらに對する訓練、養成の爲にも莫大なる努力が傾注された。又勞働者側に於

ける技術習得欲も極めて旺盛で、相俟つて最近に於ける勞働者階級の一般教育程度は従前に比較して著しく進歩した。又、社會厚生の契機とは、最近に至つて蘇聯邦の大衆間に於ける物質的、文化的狀態が一般に著々と改善された結果、人民の批判力、反省力、創造力又體力が著しく發達したことを意味してゐる。一九二六―一九二七年の物價水準を基礎にして測り、一九三五年度の國民總所得は一九三二年度の二倍以上に達してゐるといふのである。

以上にスタハノフ運動の基礎を成す四つの契機を舉げたが、しかしマルクス氏はなほそれに加へて、此の運動を繞つて勞働能率の増進を惹起せしめるに最も決定的な意義を成す契機として、蘇聯邦に現行の賃銀制度を指摘することを忘れてはゐない。蘇聯邦に現行の賃銀制度が立脚する根本原理は、一言にしていへば『各人の受ける勞働報酬は各自が仕上げた仕事の量と質とに比例する』といふのである。此の原理は『社會各人の欲望を完全に充足すること』といふ蘇聯邦究極の目

標から見れば當面凡そ對蹠的にも懸けはなれた方面を目指してゐる。しかし、右の如き究極の目標は國內の生産力が充分なる發達を遂げた曉に始めて實現せらるべきことであつて、蘇聯邦に於ける國民經濟的生産力の現發展段階が以上の究極の境地からは相去るなほ甚だ遠いことを官民共によくこれを理解してゐる。そして、かゝる究極の段階に迄國內生産力を引上げて行くのには勞働能率の増進が絶對の要件になつてゐるのであり、此の勞働能率の増進は又各勞働者が自己の生産結果に對して直接の利害を感じるやうな仕組の中におかれることに依存してゐるといふのである。即ち、承認された一般の原則として『各人は能力に應じて働らき、而して夫々の仕事の結果に應じて各自の報償が給付される』といふことが蘇聯邦現段階の勞働及び賃銀制度の基礎である。此の原則こそは又スタハノフ運動の成功が依存する決定的契機である。

四、私 見

スタハノフ運動

以上に蘇聯邦勞働行政の最高幹部の一人マルクス氏に據つて、スタハノフ運動の概貌を略述した。ここにそれに關する私見の一端を附加しておきたい。マルクス氏の見る如くスタハノフ運動が蘇聯邦の國民經濟的生産力の發達に偉大なる貢獻をなしてゐる事實はこれを信じてよいと思ふ。ただ吾々は、此のスタハノフ運動の驚嘆すべき効果は畢竟勞働能率の顯著なる増進を内容とするものであることを忘れてはならない。而して又、現にスタハノフ運動を繞つて見られる如き勞働能率の増進は單に勞働生産力の増進にのみ依存してゐる譯のものではなくて、同時に又他方に著しき程度の勞働強度の増進がそこに伴はれてゐる事實を此の際看過することが出来ないのである。勿論勞働強度の増進は種々なる契機を含んでゐるが今はこれを詳論すべき餘裕がない。

次に注意すべきは、現段階の蘇聯邦では、五ヶ年計劃に於ける生産力擴充豫定の實現に對する第一要件たる勞働能率増進の爲に、勞働者の勞働欲刺戟の手段と

- 4) この點については Marx, K., Das Kapital, I. Volksansgabe, 1923, S. 353 ff. 参照
- 5) 勞働者の體力、智力、及び世界觀が其の勞働強度を左右する力の大なることはいふまでもない。

して専ら純粹の社會主義的競争といふ社會的名譽心の喚起にのみ依頼してゐることが出来ないといふ事實である。かくて、勞働者各自の勞働結果と各自の上に歸着する物質的利害との間に密接な聯絡關係をおくといふことが蘇聯邦賃銀制度の基礎的原理たらしめられてゐるのである。『各人は能力に應じて、各人に對しては又欲望に應じて』の原理は、現段階の蘇聯邦にとつて寧ろ遠い將來の理想對象に止まるといはねばならぬ⁶⁾。

そこで賃銀制度の形態を時間制より出來高制に改めて行くのに懸命の努力が傾けられ、而も又團體的出來高制形態から個人別出來高制形態に賃銀原則を改めてゐるといふのも結局は皆以上と同じ要求から出發してゐることと認められなければならぬ⁷⁾。

勞働強度の増進と賃銀形態上の能力原則とは、たとへそれが資本主義社會に於ける場合と究極的意味を異にするところがあつても、これは現段階の蘇聯邦が又其の國民經濟的生産力發達の根柢を其の上に託さざるを得ないところの根本的契機であることはスタハノフ

運動に關する責任當局の所述の中にもなほ蔽ふべくもなく見えてゐる。

因に、テラー式科學的管理法は最近迄即ち五ヶ年計劃制の實施に入る前迄は、それが専ら資本家の利益の爲に極端なる勞働強度の増進を齎し、これによつて人的生産要素の掠奪的使用を促進せしめる狡猾なる似而非合理化の手段であるとして、蘇聯邦勞働科學界の嘗ての先達エルマンスキー其の他によつて極力排撃されてゐた。經營過程に行はれる彼等の所謂眞の合理化即ち社會主義的合理化は、ただ物的生産要素を整備して、且つこれが利用上に生理學的勞働エネルギーの最高生産力點を維持するといふことに他ならなかつた⁸⁾。五ヶ年計劃に入ると共に彼等の主張は拒否されて、今や勞働能率の増進が蘇聯邦の勞働科學及び勞働政策に於ける第一原理になつてゐる。

- 6) 蘇聯邦の現行賃銀制度にて勞働者の最低生活に必要な最低賃銀の保證あることは勿論である。
- 7) Cf. Kingsbury, S. and Fairchild, M., *Factory, Family and Woman in the Soviet Union*, 1935, p. 46 ff.
- 8) Vgl. Ermanski, J., *Theorie und Praxis der Rationalisierung*, 1928. Derselbe, *Wissenschaftliche Betriebsorganisation und Taylorsystem*, 1925.